

Sendagaya Cloud/Crowd

オリンピックは時代と共に、成長し世界規模のイベントとなってきた。
そんなオリンピックの魅力は同時多発的に様々なスポーツが行われることである。
Sendagaya Cloud/Crowdは競技空間のみを設けることでその同時多発性を体感し、その経験を千駄ヶ谷に根付かせる建築となる。また、その情報に溢れた空間がオリンピックの情報ストックや研究を行うラボになる。
周辺の商業の広告塔としても機能して、千駄ヶ谷を盛り上げる。

この建築が一過性のイベントのように通り過ぎるオリンピックを街に根付く文化に変えていく。そうして、オリンピックにレガシーを残すことを提案する。



敷地周辺に対して、建築が開いていることで、"オリンピックアクティビティ"が街へとあふれ出す



さまざまな情報によって、人々が集い、それぞれにコミュニティを形成していく



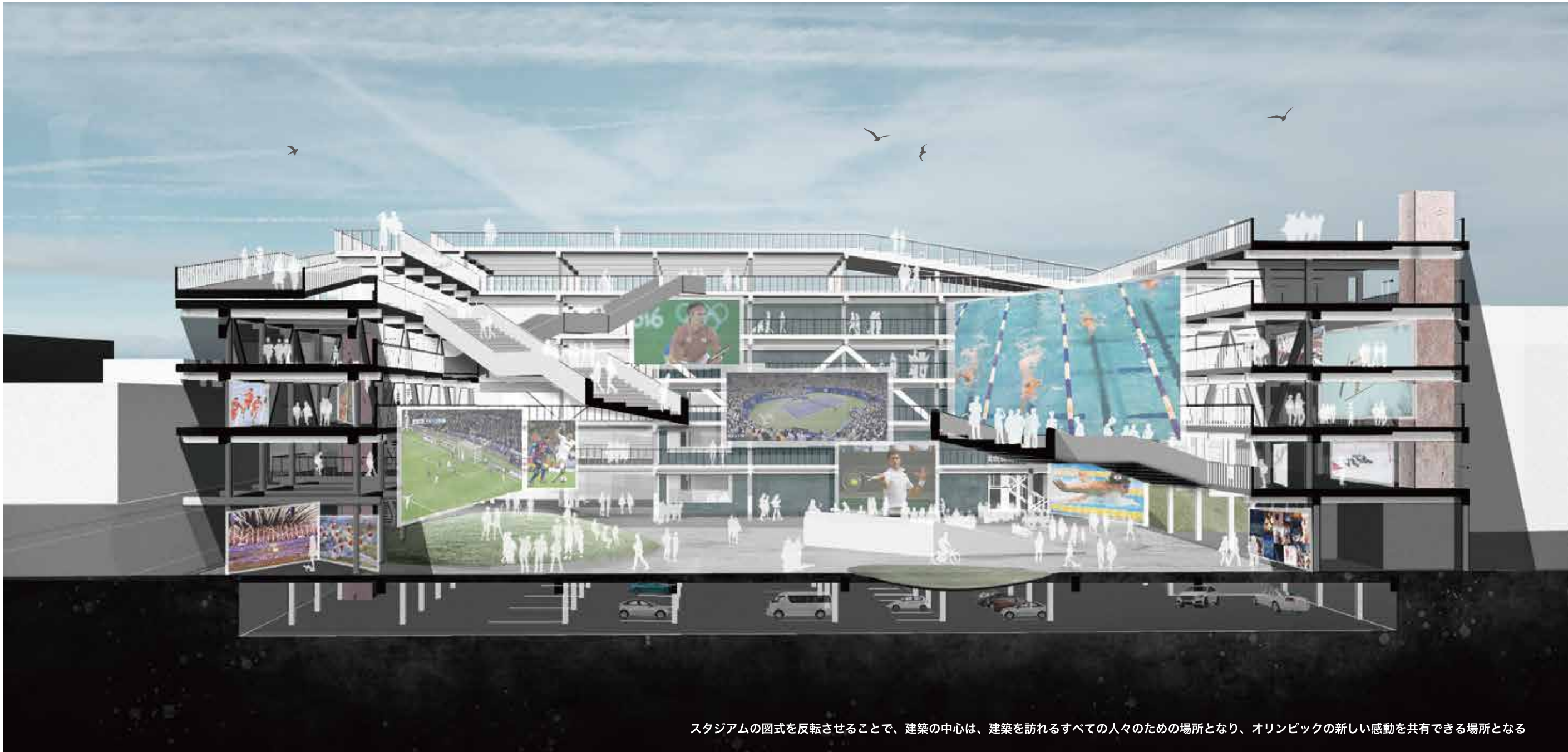
千駄ヶ谷周辺の商業が、広告活動としても利用される



オリンピックを支えるラボやオフィスが隣接する



中心は、さまざまな"オリンピックアクティビティ"が見渡せる広場となる



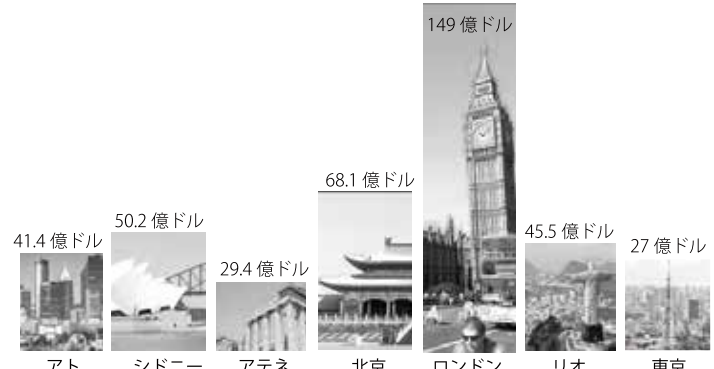
スタジアムの図式を反転させることで、建築の中心は、建築を訪れるすべての人々のための場所となり、オリンピックの新しい感動を共有できる場所となる

01,Research of Olympic

01-1,都市にダメージを残すオリンピック

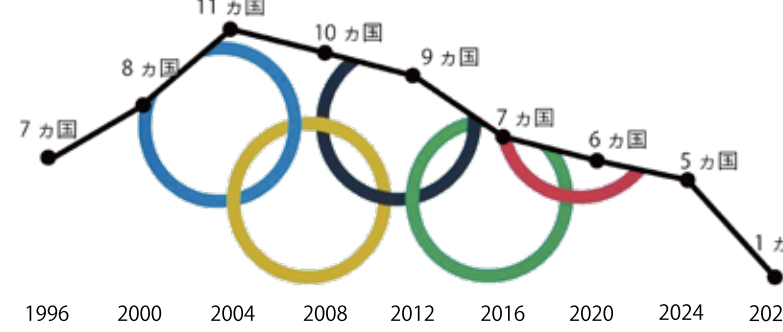
開催費用は近年、膨大になっていてオリンピックは先進国ですら開くことが難しくなっている。これは**オリンピックが都市にレガシーを残すのではなく、ダメージを残すもの**になってしまっている。下記に示されているように、主催する都市も減少を遂げて、オリンピックが敬遠されるものになってしまっていることがわかる。

開催費用



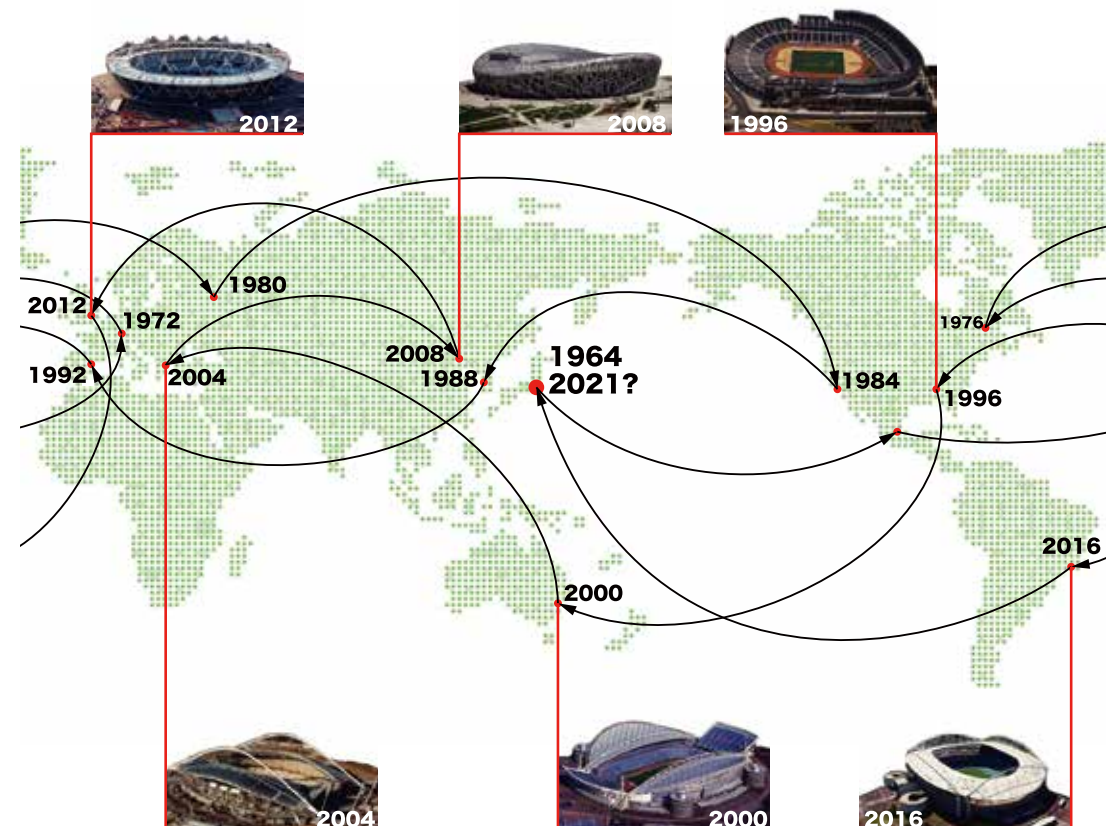
出典: The Oxford Olympics Study 2016: Cost and Cost Overrun at the

開催立候補国数



01-2,開催都市はオリンピックの通過点

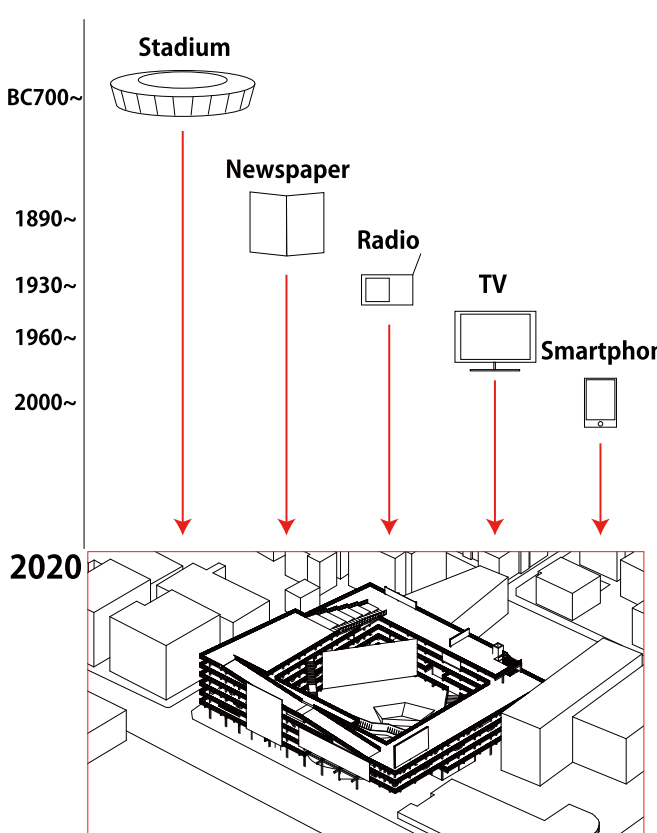
オリンピックは場所を持たないイベントである。世界を旅する代わりに、場所に根付き歴史を積み重ねることを捨ててしまった。それゆえに、オリンピックは数百年も長く速くなくなり、開催国は「オリンピック自身」ではなく、「オリンピックが終わった後のレガシー」に価値を見出すようになってしまった。レガシー向けの議論は間違っている。現代において、スポーツの祭典「オリンピック」は「ただのエネルギー」として扱われているのだ。



02,New Audience Space of Olympic.

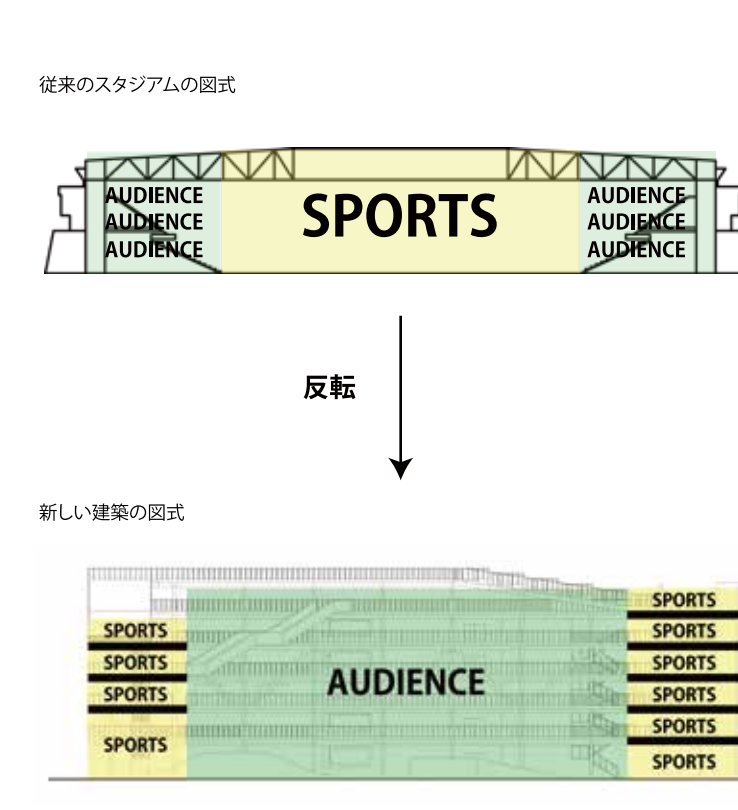
02-1,オリンピックの良さを再構築する

オリンピックは、技術の進歩とともに様々な観覧方法を構築してきた。その**多様性**が**オリンピックの良さを最大限に引き出す**。今回の提案では、その形式を転換させて、その提案は、観覧方法を分解し、建築に落とし込み、再構築することを試みる。



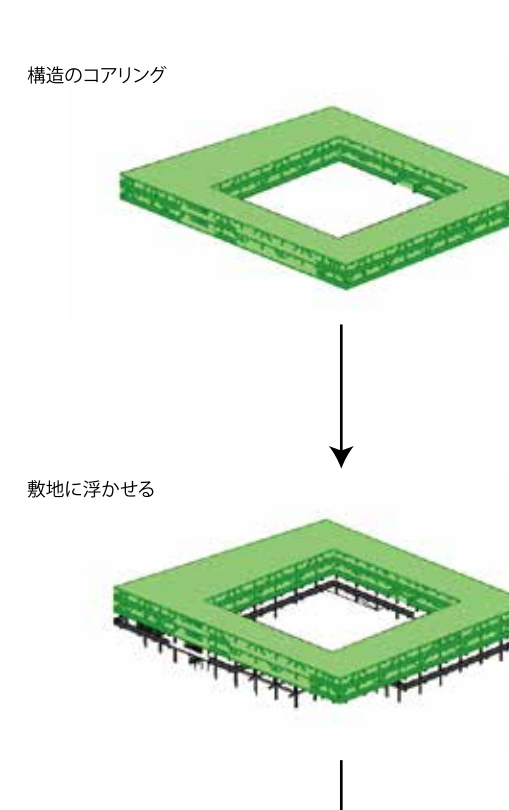
02-2,スタジアムの図式反転

従来のスポーツ観戦は、スタジアムのようにスパー選手のような一部の人の注目を集めるような形式であった。今回の提案では、その形式を転換させて、その提案は、**観覧者一人一人が主人公であるような、全員が参加者となる形態にオリンピックが変わるための空間となる。**



02-3,構造のコアが敷地に浮く

構造のコアリングを敷地に浮かせることで、地上部分の広場は周辺の道路環境や、近隣の建物と一体化し、**敷地に溶け込む空間となる。**構造形式に沿って、スクリーンが導入される。



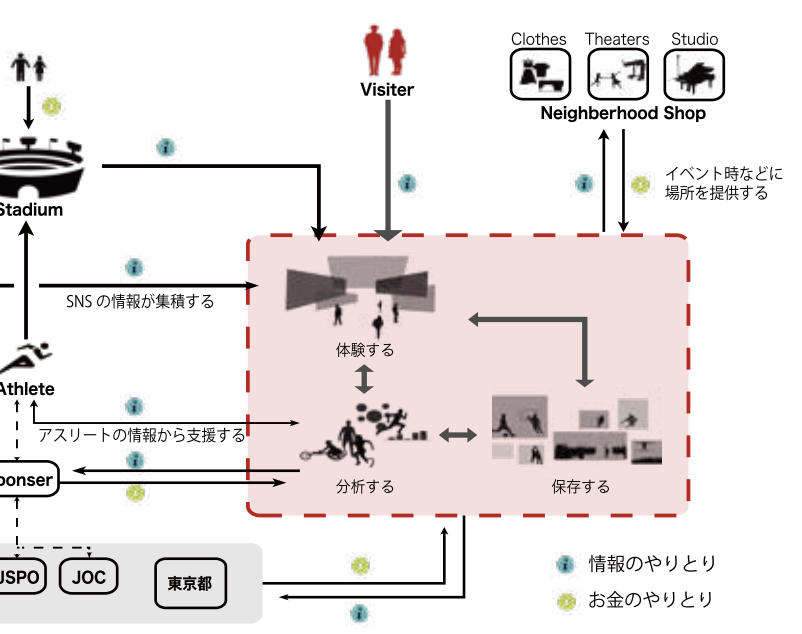
02-4,情報による関係性

建築やIOCなどのオリンピック関連組織、周辺店舗どうしの関係を示すスキーム図。この建築はオリンピックの他の会場や、オリンピックに参加している選手、観戦者など**情報によって関係性を構築**となる。

・東京都やIOCとは公的な施設として、資金をもらい、建築側からはオリンピックに関する情報やスポーツの提供をする。

・また、この建築は様々な情報ツールを生かして選手の日常を共有したり、選手と市民の交流の場として開かれる。

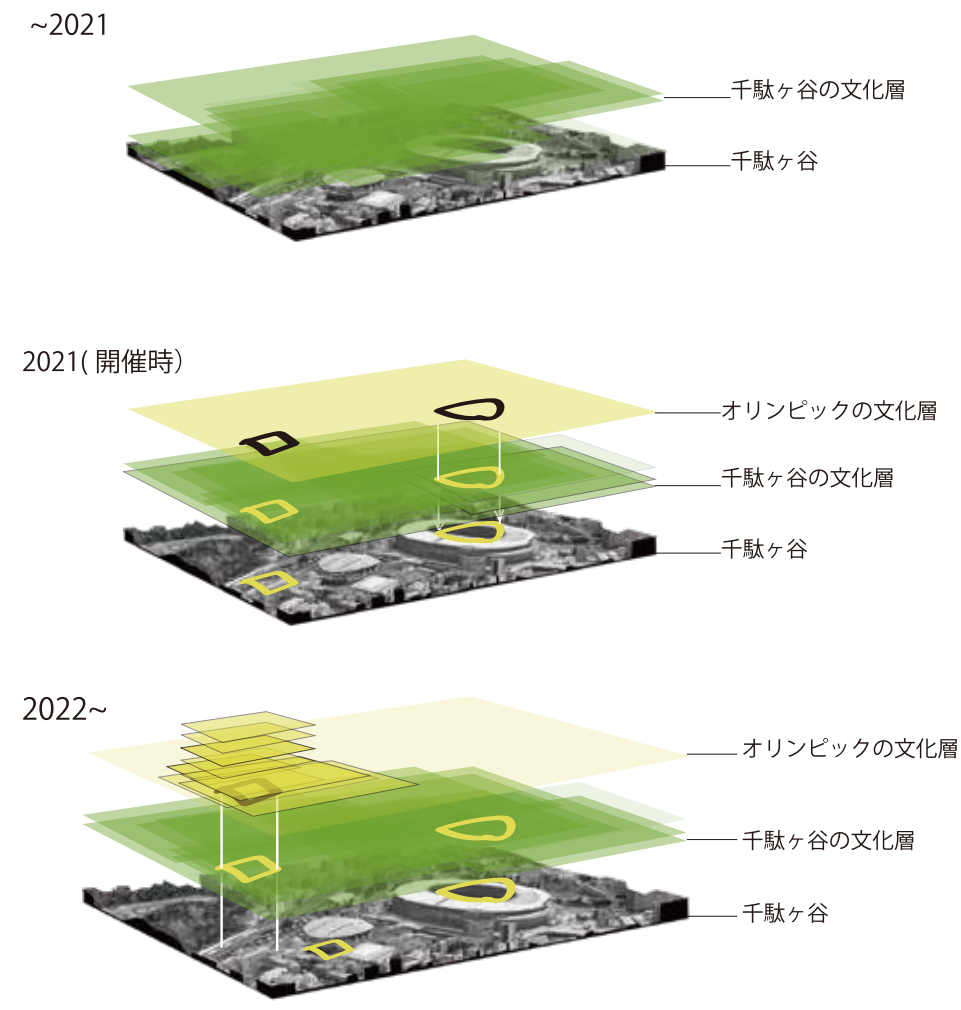
・また千駄ヶ谷周辺にある店舗と関係を持つ、この建築が持つ広告性を周囲の店舗が利用したり、フレキシブルな空間を期間限定店舗として、宣伝できる。



03,Legacy for Olympic

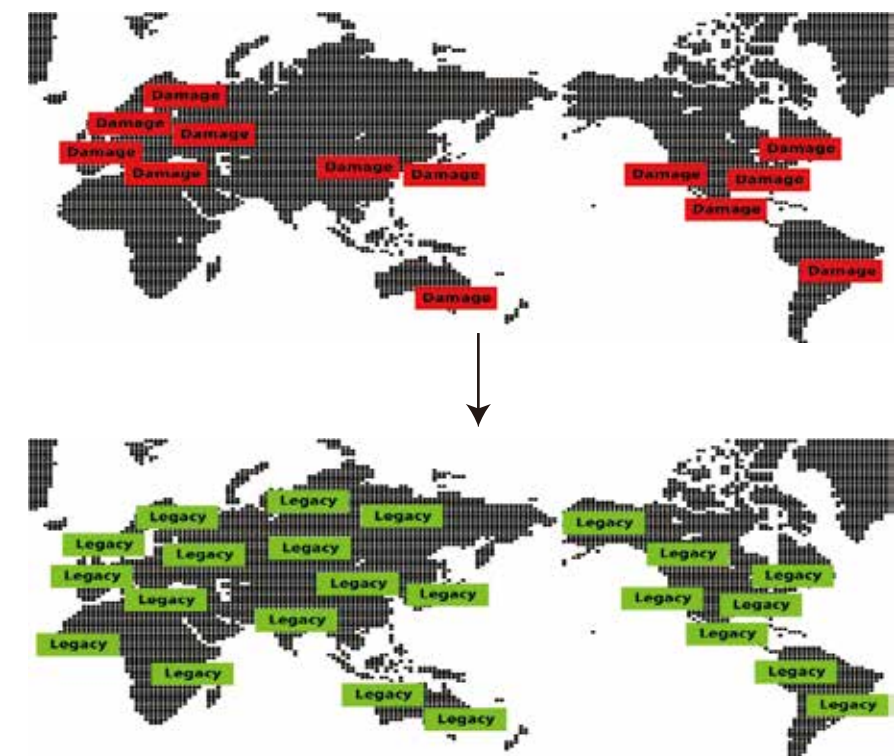
03-1,街に蓄積するオリンピック

今まで、オリンピックが立ち立ると同時に、オリンピックの文化レイヤーも消失してきた。しかし、オリンピックはこの建築があることで開催している時も、準備期間の間もこの場所にオリンピックの文化を根付かせることができるものとなる。そして、**この建築が現在のオリンピックのイベント的な存在の仕方を変えていく**



03-2,2020年からオリンピックが変わる

今までのオリンピックは試合会場に縛られ、一箇所で開く必要があった。そうしなければ、オリンピックは価値を見出すことができなかった。しかし、この建築が立ち上がり、「地に根付いたもうひとつの中心地」となることで、「地域と共に生きていくオリンピック」より、「レガシーを創出するオリンピック」という姿になる。オリンピックをより自由な存在に昇華させ、**分散型の世界的同時開催オリンピック**という姿をも可能と考える。この建築は、**オリンピックへのレガシー**となるのだ。



hlc-0039